

# ア！ 安全・快速街づくりニュース

## 一当NPOの街づくり提案— 都市再生本部の「都市再生モデル調査」に選定 浸水シミュレーションによる防災街づくり調査など国費で実施

内閣官房都市再生本部が募集していた平成16年度全国都市再生モデル調査に本NPOの提案がこのほど選定されました。

これにより、本年度の主要な活動課題である次の調査項目が国から調査費の支給を受けて実施することが可能となりました。これらの調査は、平成17年3月末までに完了することになっています。

また、調査の実施に当っては、推薦を頂いた葛飾区と共同で進めていくことになり、第1回の連絡会が9月30日に開催されました。

本NPOの石川理事長は、「今回の募集は、全国から566件の提案があり、そのうち162件（都

内では14件）が採択されました。これも本NPOの日頃の着実な活動が評価され、その活動の一環として打ち出された提案が時宜を得たものだったためでしょう。今後河川の水面上とコンクリート堤防上や民地との温度差を皆さんに体験していただく企画も考えていますのでご参加ください。」と語っています。

### [ 調査項目 ]

- ◇ 浸水シミュレーションによる防災街づくり
- ◇ 河川の冷気の有効利用による沿川市街地のヒートアイランド現象緩和
- ◇ 水位標設置などによるモデル地区でのスエーパー堤防建設の必要性

### —用語説明—

#### 「全国都市再生モデル調査」

地域経済・社会の活性化等を目的として、都市再生本部（本部長 内閣総理大臣）が、全国各地の先導的な都市再生活動を「全国都市再生モデル調査」として支援するものです。

このため同本部は、都市再生を推進する上で、特に創意工夫が必要なまちづくりに関わる構想の具体化、計画等の作成、シミュレーション、実地検証等の調査活動（平成16年度中に実施可能なもの）について提案を募集しました。

応募できる団体は、①地方公共団体②地方公共団体の部局を構成員に含む団体③まちづくり活動に係るNPOその他の団体（地方公共団体の推薦を受けることです。

今回の募集は、全国から566件の提案が出され、そのうち162件（都内14件）が選定されました。

選定基準としては、次のような事項が挙げられています。

- 全国の参考となるべき先導的な都市再生活動であること。
- 国費によるモデル調査の対象となる取組みが平成16年度中に実施可能であること。
- 地域が「自ら考え自ら行動する」という趣旨に適合し、テーマや活動の具体性・確実性があり既存の調査・制度との競合がないこと。また、住民代表・地元企業等の参加や街づくり専門家等との積極的な連携があること。
- 発想や着眼点の新しさ、地域資源の活用、創意工夫、閉塞状況打破の方向性、その他他にない特長があること。



## 5月13日 第3回総会開催 16年度事業計画・予算等承認

平成16年度総会・理事会・評議委員会が去る5月13日(木)午後2時30分から、大成化工(株)会議室(葛飾区西新小岩三丁目)で開催されました。

50名の会員が参加し、15年度事業報告・決算、16年度事業計画・予算等の審議が行われ、満場一致で承認されました。(議案の内容は本紙VOL.4参照)

15年度は、主な事業として定期的に見学会や勉強会を開催し、さらに11月には葛飾区と共に「川と街づくりのシンポジウム」を行いました。また、ホームページを立ち上げ、街づくりニュースを発行し、本NPOのPRに努めました。決算については、地域の方々や各方面のご支援を頂き、健全財政を貫くことが出来ました。

16年度は、これまでの活動を継続すると共に、新しい事業として次の項目が計画されています。

- ① 地震時水害のシミュレーションに関する研究
- ② 河川の冷気利用の研究
- ③ 水位表示板の設置

議案の説明の後、質疑応答に移り、出席者から活発な意見や質問が出されました。(総会の質疑応答参照)

次に、議案と役員の選任について同意され、総会・理事会・評議員会は終了しました。

休憩の後、懇親会に移り、リバーフロント整備センター、荒川下流河川事務所をはじめ、東京都や地元葛飾・江戸川両区の幹部職員、町会長等からご挨拶をいただきました。さらに総会で質問出来なかった方々から有意義な質問もあって盛会でした。終始和やかに話し合い、予定の時間を大幅に越え6時半過ぎに散会しました。



### 総会の質疑応答

平成16年度総会の質疑応答の一部をご紹介します。

- Q1 : スーパー堤防を作らずに川底を掘り下げるか、浚深を頻繁に行えば足りるのではないかですか。  
A1 : 洪水対策としては、それで済むかもしれません、大地震で堤防が1箇所でも決壊したら地盤の低い地域は、一瞬にして魚が棲む場所となってしまいります。
- Q2 : 仮にスーパー堤防が必要だとしても、流域住民の個人資産を奪うような事業が今の時代に出来るのは思えませんが。  
A2 : 工事中の転出は必要でも、工事が終われば戻ってきて、新しい街に住むようになります。その際、本NPOは、前よりも安全で快適な街になるよう活動しています。
- Q3 : 見学会に参加した人達の反応はどうでしたか。今後の事業を進めていく上で参考になる事項がありましたか。  
A3 : 見学会では、船から見える街と川が大変新鮮に写り、水上交通の方が陸上より人・物の移動に適しているのではないか、また右岸側の都心に近い方がスーパー堤防が進んでいるようだ等と感じたそうです。
- Q4 : ヒートアイランドの解消に対してスーパー堤防はどのような関わりがあるのですか。  
A4 : コンクリートで覆われた今の中川堤防が芝生や樹木で覆われることにより、水面の冷気が街の中へも伝わり、気温の上昇が押さえられます。その実現性や効果について調べてみたいと思います。
- Q5 : この西新小岩三丁目付近の地盤沈下は、どのくらいですか。また震度7の地震が来たとき堤防は安全ですか。  
A5 : 大正時代の初めから昭和40年代までに、4.0M以上地盤が沈下しており、未曾有の地震が襲えば堤防が安全だとは言いきれません。そのため、スーパー堤防と一体の街づくりを目指しています。
- Q6 : スーパー堤防の工事は、川からどれくらいの範囲に及ぶのですか。  
A6 : 川と平行に沿った道路が境になり、最も広いところで300M位が目安となります。
- Q7 : NPOにとって区からの補助金は大切な財源であり、葛飾区の方に補助金を頂けるか伺います。  
A7 : 区としてNPOの運営に予算面で助成する考えはありませんが、例えばシンポジウムを共催する等の支援は考えられます。

# 水と緑を活かした区民参加による街づくり

葛飾区都市整備部長 柳澤 恒雄

## 1. はじめに

葛飾区は、34.84平方キロメートル、人口43万人が生活する下町情緒が残るまちです。

寅さん記念館のある柴又公園に接して流れる江戸川をはじめ、中川、新中川、大場川、荒川等の大きな河川の存在が地理的特徴となっています。

また本区は、江戸時代から昭和初期にかけて菖蒲園や花木園が数多く存在し、四季折々に、江戸東京の人々に憩いと潤いをもたらす水と緑の多い地域がありました。

しかし、残念ながら、その後の日本の経済発展につれて、本区においても大都市東京の拡張に伴う都市化の進行により、次第に緑やオープンスペースが失われるとともに、災害に対し脆弱な構造が長期間続いてまいりました。

## 2. スーパー堤防とまちづくり

本区のまちづくりを考えるとき、上記の6河川に準用河川である「水元小合溜」を加えた7つの河川を活用した水辺のまちづくりとともに、区域の大部分が江東テルタ・ゼロメートル地帯という沖積層の低地帯であり、洪水や地震災害に対し、脆弱な地勢であることを前提とした計画が重要となっています。

区民からも、これらの河川との関わりの歴史から、治水と親水を併せ持った街づくりの要望が多く寄せられています。また、戦後の急速な都市化の結果、特に区の西側地域においては住工混在が多く、木造の密集した市街地が形成され、道路や公園等の都市基盤施設が不足するなど、防災上の課題も抱えています。

今般定められた東京都計画の“都市計画区域の整備、開発及び保全の方針”においては、本区の位置付けは、都市環境再生ゾーンとしてその将来像を次のように示しております。

- 狹小宅地の集約化や細街路の拡幅整備等により木造建築物が集積する地域が改善され、安全な市街地として再生されている。
- 河川や道路等を活かした緑の回復などにより、コミュニティの充実した健康で質の高い住環境が創造されている。
- 水辺を活かした街づくりが行われ、水と緑の調和した魅力的な居住環境が形成されている。

また、高規格堤防（スーパー堤防）と一体となった街づくりのマスタープランである“荒川沿川整備基本構想”においては、沿川整備の方針が次のように示されています。

- 災害に強い街づくり・・・洪水や高潮に対する流域の治水安全度を高めるため、高規格堤防と木造密集市街地との一体的整備を進め、共同建替え等による災害に強い街づくりを進める。
- 地場産業の活性化による街づくり・・・高規格堤防の整備に合わせて、優れた地域コミュニティや住環境の整備及び住居と就業の場として調和のとれたまちづくりを進める。
- 人と自然にやさしいまちづくり・・・荒川の貴重な自然環境を保全・活用し、高齢者や障害者等を含む全ての人が自然とふれあい、安心して親しめるような自然と福祉の空間づくりを沿川の市街地整備と一緒に進める。

本区の荒川沿川には、この構想に基づき「調査・検討を進める地区」に位置付けられた地域が連担しています。

なお、上平井水門は高潮防御施設であり、その下流の中川左岸堤は、荒川の本堤であることから水害対策上スーパー堤防の整備効果が大きいものと考えられます。またこの沿川には公園、下水処理施設、小・中学校、公団住宅等の公有地が多く、広域避難場所にも指定されています。

## 3. おわりに

以上の点を踏まえ、河川に係わるスーパー堤防事業による密集市街地の再生は、防災上重要なものの1つと考えております。

このような街づくりは、区民の方々のご理解が極めて大切なことと考えております。その意味で「ア！安全・快適街づくり」の皆様により進められている西新小岩におけるスーパー堤防事業への取組みに対し感謝申し上げる次第です。

先日、国が募集していた「平成16年度全国都市再生モデル調査」に同NPO法人の提案が採択されたことは大変意義あることであり、区も協力させていただきます。今後とも「水と緑を生かし、区民の皆さんのが参加と区によるまちづくり」の良き事例となることを願うと共に、同法人の益々のご発展を祈念するところでございます。

# 麻布大学生による船上見学会

去る8月19日（木）昼過ぎ、大型で強い台風の余波が残る荒川は、残暑の陽がギラギラ照り付けているものの、南よりの強風が川面を吹き抜けて、暑さを和らげていました。

果たして、この風で荒川号は出航できるかどうか心配しつつ、「荒川下流河川事務所」にある「知水資料館アモア」へ向かいました。

今日の船上見学会は、7月中旬、「銀座プロッサム」で開かれた「水辺からの都市再生シンポジウム」の石川理事長の基調講演に対する麻布大学生岡野愛さん等の質問がきっかけとなり実現しました。

夏休み中にもかかわらず、同大生14名が自主的に集まり、荒川号に乗り込み、移り行く川の景色に目を凝らしていました。時折強風が、強化プラスチックで覆われた船の天井まで波しぶきを運び一瞬視界が見えなくなったりしましたが、船内は快適そのものでした。

このような荒波で接岸が難しく、途中下船して大島・小松川地区のスーパー堤防完成現場の視察及び東京湾を航行するという当初の予定が変更となり、荒川河口から砂町運河を通り、隅田川を上がって進みました。

船には大画面が据えられ、居ながらにして前方が一目で分るようになっています。

また、荒川下流河川事務所製作ビデオ「東京大水害」が放映され、荒川が決壊し濁流が都心を襲う姿に学生たちは、真剣な表情で見入っていました。

そして、荒川と小名木川を結ぶ閘門工事のビデオ「荒川ロックゲート」にびっくりし、興味をそそられた様子でした。

スーパー堤防と街づくりだけでなく、船が進むにつれ変化する東京の街並みについて荒川下流河川事務所の薄井係長と清水さんが荒川、東京都河川部の後藤さんが隅田川を説明して下さいました。

陸上へ上がれない代わりに、じっくりと景色を堪能し、丁寧な案内に聞き入っていると、時間はあっという間に過ぎ、気がつくと船は吾妻橋の船着場へ横付けされました。そこで全員下船、記念撮影後解散しました。

## 麻布大学生の感想

今回の見学会について、学生の皆さんから感想が寄せられましたのでご紹介します。（敬称略）（荒井裕二さん以外は、麻布大学環境保健学部）

◇宮林 秀行

一番印象深かったのは、荒川のロックゲートです。イギリスの川などが有名ですが、日本にあるとは驚きました。

またスーパー堤防も、ここまで普及しているとは思っていませんでした。海に近い下流域では、重要な働きをするのではないかと思いました。

気になったのは、川から見た街の画一性です。新興住宅地のようになるだけならば、残念です。

◇城島 義雄

大学の講義で、スーパー堤防について勉強する機会があり、前々からスーパー堤防を一目見てみたいと思っていました。今回見ることが出来て本当に良かったです。その他にも様々な名所の説明をしていただき荒川・隅田川のことを知る機会を得られたことは貴重な経験となりました。

◇山田 義弘

かねてより身近だった荒川下流の環境に、今回の船上見学会を通じ荒川下流域のスーパー堤防の整備状況を見るにつけ、より強い興味を抱きました。

今後は地域住民として、又都市環境や環境政策を学ぶ者として動向に注目ていきたいと思います。

◇阪本 理貴

今までの堤防では、大雨などの洪水で崩壊し、多大な被害をうけることがあった。今年の台風でも、堤防の崩壊による被害が記憶に新しい。

被害が大きくなってしまうのは、大量に水を溜め込んでしまったことによって、崩壊したときのパワーはすさまじいものとなる。

その点スーパー堤防は、逆転の発想で少しづつ街に流していくとはよく考えられていると思う。

こうすることによって被害も小さく出来るし、さらに土地をより多く有効に使うことが出来る。大規模河川の下流域では非常に有効だと思われる。

◇実方 慎

見学会に参加したことにより、スーパー堤防に興味をもつことができました。

#### ◇高山 靖史

荒川の水害やその対策、周辺の地理などが分り、とてもいい経験になりました。スーパー堤防についても、効果や重要性などが非常に良く分ったので、今後様々な川を見て色々と考えたいと思います。

#### ◇田中 秀和

壊れず、水害が起きたとしてもそれを最小限に止めるスーパー堤防は、とても安全性に優れていると思いました。僕は、これまでスーパー堤防は、「普通の堤防を大きくしたもの」と勝手に思いこんでいたので、驚きと恥ずかしさを感じました。

その他にも様々な安全に対する設備が施されており本当に驚きました。災害に対する妥協なき精神に感心しつつ、自分の災害に対する意識の無さを痛感しました。

#### ◇近森 正茂

スーパー堤防以外のことでも荒川について学ぶことが出来て大変楽しませてもらいました。荒川にパナマ運河と同じ閘門があることに驚きました。車や自転車で同じ道を通ったのですが、船で見た景色とは又違って東京らしさを感じました。

隅田川の橋も変わった橋が沢山あり、漫画でしか見たことが無かったのですが、実際に見ることが出来ました。次は自転車で行って見たいと思います。

#### ◇野口 崇

スーパー堤防は、洪水を防ぐという点でも非常に重要な感じましたが、私はスーパー堤防を造る過程で行われる再開発に大変興味を持ちました。

いざ再開発をしようにも、そう簡単には出来ないですし、再開発を行う名目としても理にかなっていると考えます。世界都市東京で洪水が起きようものなら国家信用にもかかわってきます。再開発により将来的にも住みやすい快適な都市として位置付けられるということは、日本にとって有益です。

公共事業は無駄という人もいますが、私はそうは思いません。災害は起きてからでは遅いですし、異常気象が多い点でも無くてはならない物だと考えます。何かが起こった時の損害の方が非常に大きいと感じました。

#### ◇小山田 和雄

乗船中に見せて頂いたビデオに私は驚かされました。今は落ち着いて流れている河川の状況が、20年前にはあのようにになっていたなんて。その成果が現況によく表れていると思いました。自然災害に対する構造上の欠陥が見事に見直されたと思いました。

#### ◇六辻 真知

とても身近な川について、今までと違った目線で見ることが出来たのがとても興味深く新鮮だった。

説明も荒川がどのようなことに利用され、どんな姿を目指して変わっているのかがよく分った。川について今まで以上に興味を持った。

#### ◇廣島 尚

外の景色に夢中になりながら説明を聞いていました。事前にスーパー堤防のことを聞いたり、インターネットで調べてから参加しましたが、実際に目で見て専門家の方々から話を聞くと分かり易く理解が深まりました。学校でこのことを勉強する機会が無かったので、また1つ環境の勉強が出来てとても光栄に思っています。

#### ◇岡野 愛

見学会は、とても貴重な体験となりました。解説も大変分かり易く水面からの風景は印象的でした。

スーパー堤防については、賛否両論があるかも知れませんが、今の都市河川にとって、スーパー堤防建設は、最適な防災策であると私は思います。

地震、増水、津波等の天災は、人間の手で容易に止められないので、私達は自分達の生活空間を守る体勢を強めるしかありません。そのための費用は安価ではないと思いますが、安全のための費用投入であれば、決して無駄ではありません。むしろ国からの助成金を治水のためのスーパー堤防建設のために有効利用できるということは、素晴らしいと考えるようになりました。

荒川流域の住民の方々のスーパー堤防や都市再生に対する関心がさらに高まり、事業が完了し、荒川流域が後世に安全な生活を約束できる地域となることを望んでいます。多少時間はかかるかもしれません、美しい荒川のために、また住民の方々の安全性向上のため、そしてスーパー堤防建設および再生事業がスムーズに行われていく為に多くの人々の理解と協力が必要だと感じました。

#### ◇荒井 裕二（高崎経済大学地域政策学部）

東京の街並みがこんな計画のもとに成り立っていることに驚きました。特に月島、佃、箱崎地区。今は立派な高僧ビルが立ち並ぶオフィス街が昔は倉庫街だったことは…。これはこれで保全していれば、風情ある街でよかったですのかもと思いました。

防災と歴史保全のバランスの保ち方について考えてしました。自分は群馬育ちの現群馬県民です。

都市災害とは、ほぼ無縁の世界ですが、この国の中心で、國の中枢機能を保っていく、このような整備事業が行われていたことを知ることが出来て大変良い経験が出来ました。

# 地元の方々が気温測定

## 〇〇〇〇〇〇川の冷気を実感！〇〇〇〇〇〇

今年の猛暑を締めくくった去る8月20日（金）朝9時、地元西新小岩三丁目町会の鈴木会長さんを始め、飯島さん、島村さん、箕輪さんが大成化工（株）の会議室へ来られました。

この町会の人達は、本NPOの徳倉副理事長が気温測定の趣旨を鈴木町会長さんに説明し、それに賛同した会長さんのお声掛けで集まつた方々です。

そもそも「川の冷気が地域に流れているか温度計で測定する」という話は、この2月に遡ります。

本NPO会員でもある東京都街づくり建築防災センターの渡邊喜代美さんが、「これから街づくりに欠かせない環境共生型住宅の実例を勉強されたら」と言われ、世田谷区の「経堂の杜」を紹介してくれました。

早速2月下旬に見学した際、ここの居住者でもあり、これをきっかけに本NPOへ入会された甲斐先生（都留文科大学）に、石川理事長が「川の冷気を街にどうしたら呼びこめるか」と質問したのが始まりです。

「河川冷気の研究」は、16年度の事業計画に位置付けられ、以後「荒川・中川の冷気を西新小岩地区に呼び込もう。そして地元の方々と“風の道”を探ろう。」と勉強を始めました。

連日新聞テレビは、今年の猛暑を地球温暖化やヒートアイランドに結び付けて報道していました。一方、勉強会では、このような暑さの中でも、工夫次第で冷房に頼らず暮らしていくことを知り、河川の冷気を活用した街づくりをめざして先ず川と地域の温度を測ることになりました。

町会の方々も、河川冷気が地域に流れていることは経験的に知っていましたが、計器を使って数字で確認するのは始めてです。

当日、にわか勉強で計器の操作を覚え、午前11時から1時間毎に8台の計器で、40測点を午後4時近くまで、自転車に乗りながら移動観測を行いました。

中川の水面と水中の温度は、鈴木町会長とご子息の愛艇で実施しました。計測の結果、荒川の高水敷と中堤そして水面は、中川のコンクリートで覆われた堤防やその付近の住宅街より全体で約2~3°C低いことが分りました。

今回は、全員が初めての事で、計器の数字を読んでいる中に、あっという間に時間が過ぎてしまったという状態でした。

次回から、この経験を生かし、広く地域の方々に参加を呼びかけて「河川の冷気」について共に研究を続けていこうと思っています。



# 「ザ・リバー・プレイス」 現場見学会

## —多摩川沿いで進むスーパー堤防と一体化した街づくり—

9月3日、多摩川・下丸子地区で6棟、960戸の住宅建設の進む「ザ・リバー・プレイス」の建設現場の見学会が25名が参加して行われました。

この事業は、国土交通省京浜河川事務所と三菱商事を中心としたグループにより共同で進められています。

建設現場事務所で、京浜河川事務所の江口建設専門官の挨拶の後、金森係長から次のような説明がありました。

- 多摩川は、首都圏を流れる急流であり、かつては、堤防決壊により災害を引き起こしたものも一再ならずあった。
- このため2001年3月、「多摩川水系河川整備計画」を定め、上流の日野橋から河口までの40km（両岸で80km）を対象にスーパー堤防を建設することとした。
- このうち氾濫した場合予想被害の大きな丸子橋から河口までを「推奨区間」、その他を「候補区間」として、出来るところからスーパー堤防の建設を進めている。
- この下丸子地区では、いくつかの工場移転跡地を利用して1.2kmに渡り民間ディベロッパーとタイアップしてスーパー堤防建設とその上での街づくりを進めている。
- すでにキャノン本社下流側では、野村不動産他2社、総合地所他4社が共同で建設事業を完了、キャノン本社部分は既設の建物があったため裏法面のみの盛土を実施した。
- 一方、本日の見学会の対象であるキャノン本社上流部分では、三菱商事を中心とするグループとの共同作業に向けた話を平成12年4月から開始し、盛土工事を2001年11月から始め、堤防は既に完成している。



多摩川沿、下丸子地区建設現場見学会

○ 多摩川堤防は、地盤そのものが高いため、堤防の高さも約3.5mと低く、スーパー堤防幅（30H）も100m前後と比較的短くなっている。下丸子地区全体で大計画面積は7.2ha、総盛土量は18.6立方mだった。

次いでディベロッパーを代表して三菱商事の川野主任から「ザ・リバー・プレイス」の概略とスーパー堤防とのタイアップ建設のメリットについて次のような説明がありました。

- 三菱自動車多摩川工場の跡地の一部4.8haを1999年に購入した。
- 「未来のふるさと」「100年都市」をコンセプトに28階建タワー3棟、13階建コート3棟、総戸数960戸の街づくりをスーパー堤防の建設と合わせて行っている。住宅建設は概ね完了、本年9月末には一部入居も始り、来年3月には全戸が入居することになっている。
- スーパー堤防建設と併せ行ったことのメリットは洪水に対して安全なこと、視界が開け素晴らしい眺望が得られること、バリアフリーで河川敷にアクセスでき、親水性を持った住宅となっていることが挙げられる。

次いで、ウエストタワー屋上に登り全体を俯瞰した後、堤防に出て移植に苦労した桜並木と遊歩道となる堤防の見学を行い、次のような説明を受けました。

- この遊歩道はキャノン本社裏までで、その先の野村不動産、総合地所の開発地域ではガス橋に続く自動車道となっており、川へのアクセスに問題を残している。
- この自動車道の植栽により、川沿いの1階部分は目隠しされ、完全に視界が失われている。

当日の見学会での質疑応答は次の通りです。

- Q1. スーパー堤防盛土の下を駐車場に利用しているのですか。
- A1. 利用していません。
- Q2. 建物の配置は、川からの風の流れ込み等を配慮して行ったのですか。
- A2. タワー棟は、方位を考慮し、真南に向くように配置し、その他の住居は、少しでも多くの住居から川が見えるよう配慮しました。
- Q3. スーパー堤防区域に建設することで、建蔽率などの優遇措置はありましたか。
- A3. そのような措置はありませんでした。
- Q4. ヒートアイランド現象に対する対策は行ったのですか。
- A4. 中央に広い空地を設け、そこを緑化するなどの対策をとっています。

# え！こんなところまで水が ——水位標を地域に設置しよう——

## ●江東区の水位標

江東区では、区内の地盤特性である低地を認識し、区民が迅速に行動を起こして、水害に対して自らの力で生命・財産を守る一助にするため、水位標が設置されています。これは、江東区が昭和33年度に区内の公園や小・中学校等に20箇所設置したのが始まりです。

その後、経年による老朽化のため、旧タイプの水位標は殆ど撤去されましたが、平成に入りデザインも一新して13基改修しました。（他に国都も1箇所設置）

私たちは、過去の大水害の「水位標」の前に立ってみると、普段意識していないけれども、いかに低地帯で生活しているかがわかることでしょう。

## ●葛飾区内に水位標を

西新小岩の上平井水門は、中川・綾瀬川への高潮の遡上を防ぐため、昭和44年度に完成しました。また、水門下流部の防潮堤は、昭和38年度から3カ年で築造されました。その後の地盤沈下に対処するため、嵩上げ工事が進められ60年度に完了しました。

このように防災対策としては、最善をつくして対応されていますが、人知を越えた大地震や高潮に対しては不安が残されています。

したがって、このような地域に生活する区民は、常に地震や台風等の災害に関する情報を共有し、自らの力で自分の生命・財産を守るため、有効活用できるようにしておく必要があります。

このため当NPOは、本年度の活動として水位標を葛飾区内に設置する事業に取組んでいます。

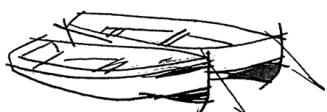
「中川の水位は、ここまで来たことがあるんですよ」と日常目に見える形で情報を提供する水位標は、区民の防災意識とスーパー堤防と安全・快適な街づくりに対する関心を高めるために大きな役割を果たせるものと思います。関係住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 【江東区の水位標設置箇所】

- ①堅川浅間小学校 ②亀戸駅前公園 ③東川小学校 ④第五大島小学校 ⑤東砂小学校
- ⑥小名木川小学校 ⑦深川第六中学校 ⑧扇橋公園 ⑨第四砂町小学校 ⑩臨海公園
- ⑪深川公園 ⑫江東区役所庁舎 ⑬第五砂町小学校 ⑭東陽公園

## 街づくりボランティア に参加しましょう！

特定非営利活動法人「ア！安全・快適街づくり」は、参加者を募集しております。



(単位：円)		
種類	年会費	入会金
正会員（個人）	1000	—
正会員（団体）	30000	10000
賛助会員（個人団体）	10000	5000

発行 特定非営利活動法人  
**「ア！安全・快適街づくり」**  
〒124-8535  
東京都葛飾区西新小岩3丁目5番1号  
Tel・Fax 03-3696-7480  
E-Mail tegami@banktown.org/  
ホームページ http://www.banktown.org/